

京都地区協議会の研究・研修会の見直しについて

私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会

理事校 京都女子大学図書館

平成 21 年 9 月 25 日（金）京都女子大学において京都地区協議会の第 1 回運営委員会が行われた。この中で委員より議事として「研究会・研修会の見直しについて」と、「相互協力連絡会の組織の見直し」についての提案がなされた。

「相互協力連絡会の組織の見直し」に関しては、現在幹事校である京都産業大学も同様の意見をお持ちのため、相互協力連絡会を中心に 2009 年度秋季相互協力連絡会で協議中であるためこの問題はここでは触れない。

次に「研究会・研修会の見直し」についての経緯は、京都地区協議会が 2005 年春季協議会で近畿イニシアティブ加入を承認したときに、近畿イニシアティブの研修に各大学が参加することで研修の機会が増えるため、今後京都地区協議会の研修会を見直すようになったと認識している。

その後の 2006 年度に、京都外国語大学（当時の理事校）から「研究会・研修（大）会に関するアンケート」が加盟館へ行われた。

その結果は、2006 年 11 月 2 日に金沢学院大学で行われた秋季京都地区協議会（第 129 回）で協議事項として取り上げられた（別紙 1）。しかしその結果、具体的な見直しは継続審議となり、今後理事校を中心とした運営委員会でこの問題を継続して審議していくこととなった。

研究会の開催について西地区の他地区（2008 年度対象）と比較（別紙 2）すると京都地区協議会は東海地区とほぼ同じ回数の研究（修）会を行っている。ただし、東海地区の 2009 年度行事予定では、東海地区研究会は 3 回と減っている。

阪神地区について、研究会は 2 回で、相互担当者連絡会が 2 回、書誌学研究会が年 3 回となっている。研究会の構成の仕方が京都地区とは異なっているらしい。

これらのことから西地区部会協議会では京都地区研究（修）会の 4 回は、最多となる。さらに近畿イニシアティブの研修を含めると 5 回になる。

近畿イニシアティブの研修会は、初級研修・中級研修と隔年ごとで行われてきた。しかし、近畿地区短期大学図書館協議会が本年度からと参加なったことから今後、初級研修が増えると予想される。

また、運営委員会の席上でも、各大学の図書館業務が業務委託や派遣の方の比率が高まっ

ている現状を考慮した研修会を望む意見や、教養的な傾向の研修が多いとの指摘も出た。

今後の検討課題を整理するとまず、研究（修）会の回数を減らし、負担を減らす。あるいは図書館の職員が少ない状況も考え2校での共同開催なども考える。ただし今後のローテーションの見直しをいつから行うかが問題となる。

また、内容の再検討について、現在研究会の内容については当番校が独自に決めているが、今後協議会としてテーマを決めそれに沿った内容での開催なども考えられる。このためローテーションの組み換えを早い時期（研修会実施の2年前ぐらい）から行い、研修テーマを十分に練った研修会を再構築してゆく方向ではどうかと考える。

例年1月に行われる相互協力連絡会の研修会は、世話人会の中で時間をかけてテーマを設定しているので、参加人数が多いのではないだろうか。今後の研修会の一つの方向性を示しているのではないかとと思われる。

これらの問題を運営委員会で継続して検討し、今後の協議会で提案してゆきたいので、京都地区協議会加盟館からご意見があればお伺いしたい。

以 上

「研究会・研修（大）会に関するアンケート」集計結果

回答校数 38

回収率 95.0% （アンケート依頼校数40）

1. 図書館職員数（館長を含む）

	0名	1～3名	4名～6名	7名～9名	10名～15名	16名～20名	21名以上
専任職員	0	14	10	5	3	2	4
非専任職員	10	18	4	1	4	0	1
外部委託・派遣職員	16	4	7	2	3	1	5

※単位は大学

2. 上記の研究会・研修（大）会にスタッフがどの程度参加しておられますか。

- (1) 必ず参加している 9 大学 (24.3%)
- (2) 出来るだけ参加している 19 大学 (51.4%)
- (3) ほとんど参加していない 10 大学 (27.0%)

参加回数		
毎回	8 大学	(21.6%)
10回以上	1 大学	(2.7%)
6～10回	4 大学	(10.8%)
1～5回	21 大学	(56.8%)
0回	3 大学	(8.1%)

3. 上記の研究会・研修（大）会に年間延べ何人ぐらいスタッフが参加しておられますか。

参加人数		
21名以上	0 大学	(0.0%)
16名～20名	2 大学	(5.4%)
11～15名	2 大学	(5.4%)
6～10名	2 大学	(5.4%)
0～5名	32 大学	(86.5%)

4. 上記の研究会・研修（大）会にスタッフが複数の人数で出席されていますか。

- (1) 必ずしている 0 大学 (0.0%)
- (2) していることもある 12 大学 (32.4%)
- (3) していない 26 大学 (70.3%)

5. 上記の研究会・研修（大）会に非専任職員が参加しておられますか。

- (1) している 1 大学 (2.9%)
- (2) していることもある 11 大学 (31.4%)
- (3) していない 24 大学 (68.6%)

6. 5の「している」、「していることもある」に○をされた加盟校にお尋ねします。

- | | | |
|-------------------|------|-----------|
| (1) スタッフが足りないため | 3 大学 | (25.0%) |
| (2) 非専任職員の能力向上のため | 7 大学 | (58.3%) |
| (3) その他 | 3 大学 | (25.0%) |

◎ 委託職員の能力向上のため。

◎ 自校で開催する研究会等の場合は、(2)の目的で参加を認める場合がある。

◎ 担当業務に関連しているテーマの場合。

7. 阪神地区協議会の研究会にスタッフが参加しておられますか。

- | | | |
|---------------|-------|-----------|
| (1) している | 4 大学 | (10.8%) |
| (2) していることもある | 22 大学 | (59.5%) |
| (3) していない | 12 大学 | (32.4%) |

8. 本協議会や大学図書館近畿イニシアティブの研究会・研修（大）会へ参加されることについて、日常業務との関連で苦慮されておられますか。

- | | | |
|---------------|-------|-----------|
| (1) している | 8 大学 | (22.2%) |
| (2) していることもある | 24 大学 | (66.7%) |
| (3) していない | 5 大学 | (13.9%) |

9. 研究会・研修（大）会を2004年度11月4日の秋季協議会において、今後、研究会・研修（大）会の在り方を見直すことが決定しておりますが、これは大学図書館近畿イニシアティブの進捗状況を見定めてから行うことになっております。しかし、貴館は本時点で早急に見直すべきであるとお考えですか。

- | | | |
|---------------|-------|-----------|
| (1) すべきである | 10 大学 | (27.0%) |
| (2) すべきでない | 5 大学 | (13.5%) |
| (3) どちらともいえない | 23 大学 | (62.2%) |

10. 9. の「(1)すべきである」に○をされた加盟校にお尋ねします。具体的にどのような見直しが見ましいとお考えかご記入ください。（たとえば研究会の廃止・統合など）

◎ 専任職員が大幅減少する中で研究会の主催を1校で担当するのが難しくなって来た。廃止統合などで研究会数を少なくするか又は担当校ローテーションを工夫するなどが必要。

◎ 図書館職員研修はその専門性故に継続して進めていくことが必要です。しかし独自に企画し、実施できるために組織連携と協力の中で進めていければと考えています。

◎ 京都地区協議会研修と近畿イニシアの研修部分を一本化したほうがよい。同じ図書館の立場であることから大きな違いがないと思われる。また、年々予算が厳しいことから、多くの研究会には参加できない。

- ◎ 現行の2つの研修会と2つの研究会を半減させて各1とする。
理由：①減った分は近畿イニシアの研修会や講演会等で十分に補充できること。
②各加盟校の専任職員数が大幅に減少していること。
- ◎ 協議会内、あるいは協会間で研修内容に独自性があるようには考えられないので、整理統合が望ましいと思われる。そのためには、まず現在京都地区内で四種類ある研修会をそれぞれ整理統合することが望ましい。その上で、近畿イニシアティブによる統合を見据えていくべきであろう。
- ◎ 廃止や統合が必要。
- ◎ 整理統合し、大学の規模別や目録、閲覧、ILLの業務別の担当者会議にしてはどうでしょうか。
- ◎ 今後は近畿イニシアティブへの統合を検討するのが望ましいと考えます。
- ◎ 検討する際、見直しを前提に近畿イニシアへの加盟が了承されたものであり、検討は必要である。しかし近畿イニシアの能力開発事業の進捗状況を鑑み、相互協力の研修や主題別研修会などの京都地区の研究会について、阪神地区との連携も視野に入れて、あまり急がずによりよい形となるよう、前向きに取り組んでいくべきだと思います。
- ◎ 国公立大学とは規模や事情が違い私学でしかできないテーマもあるかと思いますが廃止ではなく研修テーマのすみ分けをすることが必要かと思います。

2008年度他地区協議会研究会との比較

	総会	研修会・研究会	その他
京都地区協議会	2	4	
東海地区協議会	1	4	
阪神地区協議会	2	2	相互担当者連絡会年2回、書誌学研究会年3回
中国・四国協議会	1	1(2日間)	
九州協議会	1	1	

各地区協議会ホームページより